

鉄鋼ニュース

鉄鋼関係国際収支見通し

日本鉄鋼連盟調査局は7月15日の同連盟運営委員会に38年度の鉄鋼関係国際収支見通しの試算(下表)を資料として提出した。

鉄鋼関係国際収支 (単位千ドル)

	36年度実績	37年度実績	38年度目標
鉄鋼原料輸入	788,070	491,089	565,190~ 587,690
鉄鋼輸出	直接	434,582	642,364
	間接	190,461	194,043
	計	625,043	836,407
差し引き収支(-)	163,027(+)	345,318(+)	245,933~ (+)223,433

この試算では、(1) 原料輸入面に副原料(マグネシア、クリンカーなど)重油などの輸入を見込んでいない。(2) 機械などの鉄鋼間接輸入を含んでいない。(3) 輸出面ではかん詰めとして輸出される食かんのブリキ(年間推定1,200万ドル)を見込んでいないなどのほか、本年度については輸出見通しに年度当初の輸出目標数字をそのまま使っているが、すでに今年度の輸出は目標を少なくとも10%上回る可能性が大きい(同連盟推定)一などや実績を離れた点が見られる。

なお36年度から38年度までの間接輸出についての傾向は次の点特徴的である。

1. 間接輸出として使われる鋼材量は年間で普通鋼100万~130万t、特殊鋼10万~15万t。
2. 間接輸出製品総重量に占める鋼材量の割合は、普通鋼は約55%(歩どまりを計算に入れると約60%)特殊鋼約5~6%(同7%)。
3. 普通鋼鋼材生産に対する輸出比率は直接輸出が約20%、間接輸出が約5%で合計25%。一方特殊鋼は直接輸出が12%弱、間接輸出7%強、計19%。

(7. 16. 日本経済)

鉄鉄輸入ふえる

鉄鋼業界で最近鉄鉄の輸入契約がふえており、38年度の輸入鉄の入着量は通産省の当初予想70万tを6割方上回る112万t以上となる見込みとなつた。その中心はソ連鉄で、新規契約に既契約分を加え、これまでに決まつたものだけで年度内に61万tの入着が見込まれている。このほか最近では中共、北朝鮮のものも少量ながら流れ込んでおり、製鋼用鉄のほか鋳物鉄もあるとみられ、外販鉄鉄をつくっている電気鉄メーカーは神経をとがらせている。

鉄鉄の輸入は、36年度231万t、37年度は113万7千tあつたが、本年度は(1)好況時に契約した鉄鉄入着が昨年の減産時にぶつかり、輸入済みの鉄鉄が使われずに山積みされている。(2)鉄くずの在庫も多かつた一などから当初70万t程度の輸入(既契約分の入着だけ)にとどまるとみられていた。しかし(1)鉄鋼の減産緩和、(2)鉄くずの値上がり、(3)割安の鉄鉄引き合い一な

どに加え、昨年に続きソ連鉄と特殊鋼のバーター取り引きの活況から鉄鉄輸入が活発となつたもの。

輸入の新規契約先は、ソ連(21万9千t)、南アフリカ共和国(12万t)、豪州(1万t)、中共(4千t)、北朝鮮(2千t)で、ソ連をはじめ共産圏からの輸入が目立っている。輸入鉄の大半は製鋼用鉄だが、商社を通じて鋳物用鉄の輸入もかなりあるようで、鉄鉄を外販している電気鉄メーカーは通産省に対策を要望している。

(7. 7. 日本経済)

37年度の特種鋼鋼材需給

鉄鋼連盟の調べによると37年度特種鋼鋼材の総生産は1,604,444tと前年より4.3%増加し、30%の減産体制をとつたにもかかわらず輸出の増加、高抗張力鋼の増産などにより160万tの大台を突破した。一方払出しは1,552,896t(前年対比2.5%増)で、そのうち国内向けは1,072,128t、輸出が213,579t、自家消費は267,189tであつた。この結果在庫115,806tで前年対比39.6%の増となつた。鋼種別需給つぎの通り(単位t)

	生産	払出	在庫
工 具 鋼	92,335	91,802	6,119
構 造 用 鋼	843,666	815,858	56,961
特 殊 用 途 鋼	668,443	645,236	52,726
バ ネ 鋼	152,470	152,990	8,825
軸 受 鋼	115,293	114,538	6,708
ステンレス鋼	212,512	208,016	16,170
高 抗 張 力 鋼	108,353	94,239	16,355

(6. 28. 日刊工業)

富士鉄室蘭高炉の新記録

富士製鉄室蘭の5月の生産実績によると、各高炉(1, 3, 4高炉)とも好調な実働を示し、平均コークス比で0.495tの記録をつくつた。また3, 4高炉は出鉄量でも記録を更新した。

ここの新記録の原因は(1)重油の吹込みと吹込み方法の改善(2)整粒工場の新設による高炉装入鉄石の整備(3)石灰焼結鉄の大量使用とその品質の向上(4)設備改善による高温送風の実施など技術的な成果によるところが大きい。

(6. 25. 日刊工業)

八幡東田第1高炉の高圧操業

八幡製鉄所では、8月中旬から東田第1高炉(公称900t)で本格的に高圧操業を開始する。同高炉は日本では最初の高圧操業用高炉で、昨年8月火入れされてから現在まで順調な操業を続けており、最近では日産1300t台を記録、並行して昨年10月から高圧操業用の各機器の機能テストを行なつてきたが、このほど万全の態勢が整つたので中旬から高圧操業に入るもの。当初は炉頂0.1kgからはじめ月末まで0.7kgまで炉内圧を行き上げ9月以降0.7kgの高圧で生産を行なう。

(8. 5. 鉄鋼新聞)

光製鉄所の冷延工場操業

八幡製鉄光製鉄所のステンレス冷延工場は、8月から

本格操業を始める。同工場の建設は36年に着工したが、不況で一時的に中断し、昨年10月再開、総額43億円を投じてゼンジミアミル、APライン（連続酸洗焼鈍装置）各1基を設置、広幅のステンレスを生産するもの。

八幡製鉄はこれまでステンレス関係ではホットコイルを日本ステンレス、高砂鉄工などに供給してきたが、今回のゼンジミアミルの設置でステンレスの一貫生産体制が整い本格的に進出することになった。

(6. 14. 日刊工業)

東都製鋼H形鋼圧延機設置へ

東都製鋼は、6月18日から豊橋製鋼所でH形鋼圧延機ユニバーサルミルの設置工事をはじめ。総工費15億5千万円で、既設の条鋼圧延設備の増強となるもの、これにより同社は、八幡製鉄、富士製鉄、川崎製鉄に続いて4番目の圧延機によるH形鋼メーカーとなる。

製造サイズは他社との競合が少ない分野とされる中形に近い大形、大形に近い中形をねらっており200mm×200mm、100mm×50mmなど、また異形ものも生産も考えている。

国産初の日立製ユニバーサルミルは、H形鋼のほかジュニアチャンネル、ジュニアビーム、アングルなどを生産することができることになっており、能力はH形鋼で最高月産2万5千t。

(7. 16. 日刊工業)

山陽鋼高砂に精密大型輪材工場新設

山陽特殊製鋼は、7月15日英国レビー社からリングローリング・ミルを輸入して新工場を建設、精密大型輪材を量産すると発表した。同社が今回輸入することになった英レビー社のリング・ローリング・ミルは外径300～1,250mmの大型輪材を公差1.5mmという精度で量産できる画期的な機械で、わが国での使用は初めてである。新工場の内容は次の通り。

1. 兵庫県高砂市阿弥陀町魚橋の敷地38,166m²で、本年8月から建設に着手、来年4月に完成する。
2. リング鍛造機は英レビー社からリング・ローリング・ミルを輸入する。完成後は両面軸受け鋼を1カ月に250t、SC鋼を170t、合金鋼その他を80t、計500t生産するが、将来は月産1,000tに増産する。
3. 総建設資金は約6億円、うち機械輸入代金は約4億円。

(7. 16. 日本経済)

世界最大の鑄鉄管試験鑄造

栗本鉄工は、このほどかねてから研究を進めていた世界最大の鑄鉄管2000mmダクタイル大口径管の試験鑄造に成功した。これは遠心力鑄造法によるもので、同社が今春から開発をはじめ、従来の限界である1650mmをはるかにしのぐ成功を収めたもの。

最近大都市の上水道および工業用水道において大口径管需要が増大、このマンモス鑄鉄管製造の成功でこんごの同社の大口径管受注は倍増するものとみられている。同社は昭和35年4月レジンサンド法を採用して以来ダクタイル鑄鉄管の品質向上大量生産を図ってきたが、大径管製造にはモールドの材質、厚み、寸法の決定が問題とされていたもので、モールドに特殊鋼を使用することで材質の均一性をはかるなど多くの問題点を克服して今回の鑄造成功となったものである。(7. 19. 鉄鋼新聞)

炭酸ガス酸素アーク法世界の溶接界リード

名古屋大学の関口春次郎教授が発明、大同製鋼で企業化に成功した炭酸ガス・酸素アーク溶接法について、このところ米、英、仏、西独、ベルギー、スウェーデンなど各国の有力メーカーから技術提携の申入れ及びその為の溶接機、鋼線の輸出引合が殺到、話題になっている。

この炭酸ガス・酸素アーク溶接法は、これまでのアルゴンアーク溶接法や、炭酸ガスアーク溶接法と原理がちがう方法で、昨年6月ノルウェーのオスロ市で開かれた国際溶接学会の年次大会で関口教授から発表され、海外諸国の学会や関連業界にも大きな反響をよんだもの。その製造権、販売権を得た大同製鋼がすでに企業化に成功、国内業界ではかなり採用されている。

大同製鋼にきている引合のうちとくに技術提携を強く希望しているのは、英国の溶接機の有力メーカーローエン・アーク社およびイングリッシュ・エレクトリック・アークウエルディング社の両社と、ベルギーのスト・メタル社で、現在三井物産を通じて交渉を進めており、今秋には正式調印の見込みである。(7. 3. 日刊工業)

関東鉄鋼短大建設見送り決定

鉄鋼業界は、当初鉄鋼短期大学を関東、関西の両地区に設ける方針であったが、当面関西のみとし、関東は見送ることになった。

関西鉄鋼短期大学は、すでに昨年発足したが、関東についてはすでに千葉に用地を確保しているが、最近の情勢から具体的な建設計画が延びていた。7月15日の鉄連運営委員会で今後の方針を検討した結果、関東については見送ることに決めたもの。(7. 16. 鉄鋼新聞)

世界主要鉄鋼会社の生産高順位

昨年度における世界の主要鉄鋼会社の生産実績を調べたが、それによると、世界10位までの会社は、アメリカ7社、日本2社、豪州1社であり、300万台までの16社をとると、アメリカ8社、日本3社、西ドイツ2社、イタリー、豪州、ルクセンブルグ各1社であつて、生産高についてみる限りわが国の企業規模はアメリカについて高いといえよう。

ヨーロッパで最大の会社は、国家資本によるイタルシデルであるが、先日西ドイツのアウグスト・ティッセン社がフェニックス・ラインロール社を正式の子会社とすることがきまつたので、今年からは同社が最大となる。

なお、インド最大のタタ製鉄の昨年度の年産は1,643千t、オランダのホーホーベンス社は1,776千tであつた。

自由諸国における粗鋼年産200万t以上の会社の生産実績(単位1,000t)

	1961順位	1962順位
アメリカ		
USスチール	22,833(1)	23,031(1)
ベスレーム	13,557(2)	13,315(2)
リパブリック	6,578(3)	7,057(3)
ナショナル	5,555(5)	5,418(5)
ジョン&ラフリン	5,060(6)	5,047(6)
アームコ	4,862(7)	4,540(9)
インランド	4,766(7)	4,768(7)
ヤングスタウン	3,932(10)	3,817(12)

日 本			ローヌ・エスコ	2,163	2,100
八幡製鉄	6,189(4)	5,739(4)	ド・ヴァンデル	2,760	(未詳)
富士製鉄	4,625(9)	4,550(8)	イタリー		
日本鋼管	3,030(16)	3,049(16)	イタルシデル	3,510(12)	4,075(11)
川崎製鉄	2,598	2,480	ルクセンブルグ		
住友金属工業	1,691	2,060	アルベッド	3,277(13)	3,168(13)
西ドイツ			ベルギー		
アウグスト・ティッセン	2,986		コケリル・ウグレ	2,147	2,239
フェニクス・ラインロール	3,206(15)	3,116(14)	イギリス		
ドルトムント・ホエルデル	2,839	3,101(15)	ユナイテッド・スチー	3,235(14)	2,730
クレクネル	2,513	2,600	ル・コンパニー		
マンネスマン	2,354	2,654	スチール・コンパニー・	2,675	2,555
ラインハウゼン	2,214	2,470	オブ・ウエールズ		
ホエツン	2,290	(未詳)	カナダ		
オーベルハウゼン	2,190	2,231	スチール・コンパニー・	2,218	2,521
		1,947	オブ・カナダ		
フランス			豪 州		
ユジノール	2,852	2,845	ブロークン・ヒル	3,796(11)	4,121(10)
シデロール	2,436	2,445			(6. 11. 鉄鋼界報)

日 本 工 学 会

第 5 回 見 学 会 開 催 の お 知 ら せ

日本工学会主催で下記により見学会を催しますので、ご希望の方は奮つてご参加下さいますようご案内申し上げます。

記

- 日 時** 9月27日(金) 14:00~16:00
- 見学先** NHK技術研究所 (世田谷区砧 361)
- 定員** 50名 先着順に参加証をお届けします。
- 集合** 14:00時までに見学先正門に集合のこと。いずれの電車の駅からも相当離れています。下記のバスを利用するのが便利です。
- 国電渋谷駅前発
(成城学園前、国領、向ヶ丘遊園)行バスに乗り技術研究所前下車
(10分毎に出ています。渋谷から30分を見込んで下さい。)
- 小田急、成城学園前駅発・渋谷行バス
- 申込先** はがきに第5回見学会申込と書き、住所、氏名、所属学会名を記入**9月20日**までに直接**日本工学会**(東京都千代田区神田佐久間町1-11 電話 251-4358)あて申込むこと。